

■学校経営のポイント

子どもの心と生命の危機管理

小島 宏

子どもの心と生命を軽視した痛ましい事件が頻発している。子どもの危機回避・対応能力を育てるとともに、それにも増して教育委員会、学校、家庭、地域、関連諸機関は連携し、町ぐるみで、心と生命の危機管理に取り組むことが求められている。

子どもの心を安定させる

学校に行きたくない、学校に行けない子どもがいる。登校しても無視され教室の片隅でじっとしている、仲間からいじられている、いじめられている、仲良しの友達がいらない子どもも少なくない。

学校経営の基本に人権尊重を掲げている以上、子どもの人間関係を把握し、改善し、不安感を払拭し、「安心、安全、安定」のある学校生活と学習活動を保障できる学校にしたいものである。

自己肯定感を持たせる

教師は無意識のうちに、子どもに完璧を求め、欠点や不足を指摘し、あれこれ注意することが多い。それが自信を失う子どもと優越感を持つ子どもを生み出し、子どもたちは、教師の子ども評価を基に序列化し、人間関係に反映させる傾向がある。

教師は子どもの「よさ」を見つけ、知らせ、ほめ、自信を持たせる肯定的評価を実践する必要がある。そして、その「よさ」をもっとよくするために、少しの注文を付けるようにしたい。

また、「教室は間違えるところである」などと綺麗ごとを言わず、完璧を求めず、意欲や積極性、発想、努力、少しの進歩や成長を見取り、それらを大きく評価することが重要である。肯定的評価によって子どもの心を安定させることのできる教師でありたい。

つまり、自己肯定感、自己有用感を持たせることである。認められる心地よさを実感した子どもは、他の子どもを認めることができるようになり、人間関係は好転するはずである。

生命を脅かす危機状況の把握

生命尊重という曖昧なレベルではなく、子どもを取り巻く生命の危機的状況を、登下校中の交通事故や不審者による殺傷・誘拐・性被害、食物アレルギーや急病・怪我、授業や校外学習での事故、非行などと、具体的に把握することが重要である。

自校の実態を把握し、発生の可能性を吟味し、子どもへの指導と学校の対応を策定する必要がある。

生命の危機管理のポイント

校長の生命の危機管理に対する「指導と管理と対応」を基にした基本方針(起こさない対策・訓練、起きた時の迅速・適切な対応、事後処理と再発防止策)とリーダーシップが最大のポイントである。

具体的には、いじめや人権、好ましい人間関係、健康と生命・食生活、生活習慣、酒・たばこ・薬物・危険ドラッグなどについて、子どもへの指導と訓練・行動化を確実に実行する。その際、子どもへの指導と学校としての対応を実現できる教師の力量を高める研修が不可欠である。

また、子どもや保護者からの悩みや困った時の相談に応ずる体制と高い機能も求められる。学校がまず最大限のことを行い、その上で、教育委員会、保護者や地域、関係機関と協力・連携していくことが不可欠である。

危機管理の実際

危機管理に特効薬はない。人間はうっかりする、間違っ存在である。事故の火種はどこにでも転がっている。そして、昨日良かったから今日の安全、今日良かったから明日の安全が保障されるものではない。一寸先は闇、これが危機管理の現実である。

指差し確認、チェックリストによる点検を実施し、「兆し」のうちに手を打つことが肝要である。

(こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長)

●現代の学校教育の難題は、最新の「脳科学」で解決できる！

素質と思考の「脳科学」で子どもは伸びる

【著者】林成之 四六判・240頁／定価(本体1,800円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

